

成長し続ける ために



奈良市立都祁小学校
堀井 崇晴
(平成12年3月 大学院修了)

長いような短いような

この都祁小学校に赴任し、六年が過ぎようとしています。単学級の小さな学校ですが、自然豊かな教育環境の素晴らしい地域です。ここでの六年間を振り返ると、まだまだ学ばなければならぬことがたくさんありますが、自分では「教師」として少しずつ成長してきたと感じています。

授業で大切なこと

教師が勝負するものは、「授業」です。子どもたちの心に響く授業をすることです。そのために写真や絵などの掲示物を使い、視覚的に楽しい板書、子どもとの理解度に応じて選べるワークシートなどを工夫しました。そして、一番大切なのは「発問」です。子どもたちに、学習で身に付けて欲しい力や学習のねらいを十分考えて「発問」にしていけるのですが、私自身もまだまだ学ばなければなりません。

子どもたちとの関係で大切なこと

次に大切なことは、子どもたちとの信頼関係です。一年目の私は、子どもたちの話をしっかりと聞くことができませんでした。この関係が崩れてしまいました。私の力不足と反省しています。それ以来、私は子どもとの話に耳を傾けることを第一に考えています。たまには授業が始まっていても、とことん話を聞くことがあります。また、できる限り一緒に遊ぶ時間を作っています。そして、子どもが主体の学級会も大事にしています。私も必ず参加の「学級遊び」を決め、いろいろなルールを話し合いました。一緒に遊ぶ中で、子どもたちの様子や人間関係を観察し、子どもたちと信頼関係を築いていこうと思っています。都祁小学校で学んだことを生かし、子どもたちとの出会いを大切にして、「教師」としてさらなる成長をしていきたいと思っています。



私の授業の様子

ひと・あれ・これ

26歳、

これからの目標



南都銀行本店営業部
吉岡 祐貴子
(平成17年3月 教育学部卒)

銀行を選ぶ理由

皆さんは銀行を選ぶ際、何を重視されているのでしょうか？
私の働く南都銀行は、奈良県を中心として展開している地方銀行です。しかし、奈良県にもいろいろな金融機関がある中で、南都銀行を選び利用していただいているのには、きっと何か理由があると思います。

お客様と接する日々

私は4年前の春、新入行員として本店営業部に配属されました。ジョブローテーションで、さまざまな部署や場所を働かせていただき、今は窓口業務（テラー）をしています。テラーの相手は常にお客様。同じサービスを提供しても、お客様によって反応はさまざまです。常にベストな接客を心がけていますが、時にはお客様を怒らせてしまうこともあり、落ち込むこともあります。そして最近では、相続の絡んだ資産相談などを受けることもあり、自分だけではベストなサービスの提供ができていないと感じる時があります。もちろんそんな時



本店営業部の窓口にて

には、上司の協力を得て接客に当たります。しかし、自分の知識のなさを痛感するたび、まだまだ勉強することは多いと反省させられます。

選ばれる銀行になるには

お客様に「銀行の窓口で相談してみても良かった」と言っていたように、テラーはさまざまな知識を持ち、常にお客様の立場に立った接客をしていかなければなりません。できれば、インターネットやATM等で便利に取引できるにも関わらず、わざわざお店まで足を運んでくださるお客様は減少していくと思います。「南都銀行の窓口で相談して良かった」と言っていただけのようなマネーアドバイザーになるのが、私のこれからの目標です。

さて、皆さんはどのような理由で銀行を選びますか？

関西空港との約束

私が初めて日本に来たのは、ベオグラード大学の4回生になったときでした。その旅行の前はすごく緊張していて、日本語や日本文化について3年間も勉強したのに現在の日本が本当はどんな国か、よく分かっていませんでした。もし日本が好きになれなかったらどうしようと不安でした。しかし、大阪の国際交流基金関西国際センターに泊まって、60か国の日本語専攻の大学生と2週間、日本のあちこちを旅行したおかげでたくさん友達ができ、日本の文化が前より一層分かるようになったし、さまざまな日本の特徴が気に入りました。だから帰国するとき泣きながら関西空港に「来年戻るよ」と言う約束をしました。

セルビアに戻って、前よりがんばって日本語を勉強して、もう一度日本に来る機会を見つけてました。そして関西空港との約束を守って、去年の10月に、また関西空港から、日本での1年の留学という冒険を始めました。

留学生としての毎日

日本はセルビアと全く違いますので日本での生活は最初は少し苦しかったです。が、案外早く慣れたと思います。それは、日本人はみんな親切ですし、日本はさまざまな点で私の国よりも生活しやすいからだと思います。その結果、今では、もう寮の自分の部屋を「部屋」と言う代わりにいつも「家」と呼んでしまっていて、奈良を自分の家のあるところと同じぐらいに感じています。

日本に来てからはほとんど毎日、色々な出来事や活動で予定はいっぱいでした。平日のほとんどは授業で忙しいことはもちろんですが、奈良教育大学の留学生は、遊ぶ時間も多いと思います。奈良は文化的な建物がたくさんあるし、奈良からは京都も大阪も近いので、それをいかしていろいろな観光をしたり、留学生の友達とカラオケや喫茶店などで遊んだりして毎日、面白く暮らしています。

私は一人っ子ですから、国でも日本でも友達を大切にします。留学生の中にも何人か本当に気の合う人を見つけたが、ひとつ残念なことは、今はまだ日本人の友達があまなくていいことです。日本人の若者はすごく恥ずかしい屋だと何度も聞いたことがありますが、日本人だけではなく、たくさんヨーロッパ人も知らない人に声をかけるのはとても恥ずかしいことと思っています。特にひどく違う文化圏に属している国の人と話すことは私にとっても少し怖いことです。でも、そういう気持ちに負けず、これからはもうちょっとがらばって日本人の友達を作りたいです。



大学祭を楽しむ留学生たち

留学生レポート



総合教育課程 生涯学習コース 4回生

井上 祐佳里

from Germany

ドイツ留学体験記

いつの間にかドイツ語が

2008年8月1日、私は一人ドイツ・フランクフルト空港に降り立ちました。私がドイツへ行くこうと思ったきっかけは「あのきれいなヨーロッパの街に住みたい」という気持ちからでしたが、実際ドイツ語の勉強に関しては、大学で第二外国語として週に1回90分の授業を取っていただけで、当時の私のドイツ語力では道を尋ねることすらできませんでした。私は、あの日空港で予想通り迷ってしまい、親切なおじさんと、つたない英語で必死にやりとりしていたことを今でも鮮明に覚えています。そして語学学校が始まった頃の友達のおしやべりも、ドイツ語と英語の混ざったおもしろいものでした。それでも1か月2か月と時間が経つにつれて、いつのまにかドイツ語ばかり話している自分がいるのでした。留学したいけど言葉ができないから・・・と不安になって諦めてしまう人もいます。しかし、語学面は向こう



ハイデルベルクで行われたカーニバルにて

私が行ってしまえば何とかなる、それを私は身をもって体験しました。
■よく学びよく遊ぶ
私が通っていた大学附属の語学学校では、ドイツ語を学ぶために、いろいろな国から多くの人が来ていました。そのおかげでドイツにいながらにして、様々な国の友達と出会うことができました。授業では、互いの国の文化や習慣、歴史などを発表したりと、実に国際色豊かなものでした。また彼らと共に過ごし日本のことについて聞かれるたびに、うまく説明することができず、自分が日本のことをあまり知らないんだということも気づかされました。夏には川岸で、みんなでバーベキューをしたり、ビールを飲んだり、ピクニックしたり。冬には本場の綺麗なクリスマスマーケットが登場し、街中がデイズニランドのようでした。ドイツ語と異文化な遊びに全力を尽くした一年でした。
ドイツから帰国し、再び日本での大学生活が始まった私は、ハイデルベルクで過ごしたあの一年間が、まるで長い夢のように感じています。いろいろな国の友達、異文化の経験、語学、想いを伝えようという気持ち。多くのことを学び、貴重な出会いや経験ができた本当に素敵な一年だったと思います。これからも一人でも多くの人が、このような体験をしてほしいと思います。

留学生レポート

奈良での留学生生活



日本語・日本文化研修留学生

パヴコヴィッチ ミリツァ

from Serbia